

マスコミ文化情報

労組会議
No.006
2004

9.3

編集発行: MIC-UNIONS
日本マスコミ文化情報労組会議
JAPAN CONGRESS OF MASSMEDIA,
INFORMATION & CULTURE
WORKERS UNIONS
東京都文京区本郷2-10-9富士ビル3F
TEL.03-3816-2988 FAX.03-3816-2993
E-mail:mic@union-net.or.jp
http://www.union-net.or.jp/mic/



『核のない世界を！MIC広島フォーラム2004 ～「戦争の時代」のヒロシマ・ナガサキ～』



MICが毎年、広島と長崎で交互に開催しているMICフォーラムが今年は広島で開催され、8月5日に市内のホテルでおこなわれたフォーラムには100名の組合員がMIC各単産から参加した。また翌日の平和公園での祈念式典と原爆被害の跡をめぐる平和散歩にも40名以上が参加。今年初めてフォーラムに参加した民放労連の齋藤譲さん(テレビ東京労組)に、フォーラムの様子をレポートしてもらう。(編集部)

やはり今年のこの日も、"59年前の出来事を忘れるな"と犠牲者たちの魂が語りかけてくるかのように、ギラギラとした太陽が空から照りつけていた... 8月5日、6日の両日、広島市でMIC広島フォーラム2004が開かれた。「戦争」という見えない暗雲が、立ち込めてきたかのような今、初めて参加した私には、大変印象深いフォーラムとなった。

今年のフォーラムから「ニュークス」(NEWS～核兵器の略語)という言葉は消えた。もっと直接的に、わかりやすく行動に訴えるという意味合いなのだろうか。

5日は「この時期、終戦・敗戦企画が取り上げられるが、『夏の風物詩』にしてはいけない。被爆の実相を世界に伝えていくのが日本のマスメディアの役割」という明珍MIC議長の言葉で開会した。続いて地元広島MICの中島議長からは「広島に住むものとして、歴史を風化させるわけにはいかない。『広島を中心から、愛と平和をさげびたい』と思っています」というメッセージがあった。

今年は本当に内容の濃いプログラムが組まれた。バッハの無伴奏チェロの生演奏に乗せて表情と表現豊かに演じられた、「ひとり語り～伸ちゃんのさんりんしゃ」(注1)につづいて、昨年広島テレビが

製作し、放送された「ドキュメント2003～チンチン電車と女学生」を上映(注2)。ストーリー内容は割愛させていただくが、元女学生運転手の藤井さんが「もういちど、路面電車を運転してみたい」と語ったあたりで、思わずほほに、涙が流れ落ちたし、制作した堀川ディレクターの優しさが十分に伝わってきた。

基調講演は作家で中部大学教授、元NHKディレクターの小中陽太郎氏。ご自身がNHK時代から現在までにやってきたことを、映像を通して語りながら、直接・間接的にマスコミに身を置く者に向け平和とは何かを考えさせるメッセージを送る、そんな感じの講演だった(ご本人は100人以上会場に集まったことに大変驚いていた)。そして安田純平さ



ん（フリージャーナリストで、元信濃毎日新聞記者）の「イラクでの拘束」時の真実についてのお話を伺うとともに、これを軸に小中氏、明珍氏を交えパネルディスカッションが展開された。

印象的な話としては、安田氏「イスラムの人々は他宗教には理解を示す人々。そして食事を共にした」、小中氏「戦争で一番被害を受けるのは一番マイナーな人（市民レベル）」。ちなみに安田氏は信毎を辞めた当時、組合の委員長をしていたとのこと。縁は奇なものである。そして初日のイベントの締めくくりで、井戸MIC事務局長から、北東アジアの非核化に向けた日韓ジャーナリストフォーラムの来年夏の開催に向けた準備が始まったことが発表された。

そして6日。参加者は暑い日ざしの下、人であふれんばかり（実際あふれていた）の広島市平和記念公園での「平和祈念式典」に参列した。ブラスバンドの奏でるレクイエム、鎮魂の「平和の鐘」の音、会場に流れる沈黙からもすべて、眠れる者たちの魂を感じるような気がした。広島市長の平和宣言には例年にも増して力がこもっていたように感じたし、子ども代表のメッセージも心を打った。が、これと全く対照的にわが国の首相の言葉は、テレビやラジオではマイクでちゃんと伝えていたのだろうが、会場内で聞く限り弱々しく、言葉に力が無い印象を受けた。来年のMICフォーラムは長崎。「忘れてはならない日」を現地で体験したことがない多くの組合員の方々、来年はぜひご参加ください。（民放労連・齋藤謙）

（注1）ひとり語りは林昭弘さん、チェロ演奏が伊藤哲次さんでした

（注2）番組の詳細については広島テレビのホームページに記載があります

<http://www.hvtv.jp/bangumi/library/2003/document0308/document0308.html>



全印総連大会報告

7月11日～13日の3日間、第54回定期全国大会が、志摩の美しい海に面した三重県鳥羽市・戸田家において開催された。

冒頭、議長団に、3日間の大会をにぎやかに盛り上げてくれた大阪地連・武田裕司代議員と、若手から東京地連・森田真志代議員を選出した。続いてあいさつに立った深野良勝中央執行委員長は、世代交代を見越した組合組織の発展を考える必要性を訴え、憲法九条を「守る」だけでなく積極的に「生かす」運動として、「憲法九条にノーベル平和賞を！」への取組みを呼びかけた。

続いて来賓の全労連・国分武事務局長、MIC・新村恭副議長（出版労連委員長）、みえ労連・臼井照男副議長からあいさつを受けた。そのいずれでも、今後数年が憲法改悪の動きに対抗する正念場であること、また組織拡大・強化の重要性が語られた。

大原つくる書記長から年間総括と来期方針案の提起、平木靖成財政部長からの決算報告・予算案提起で、初日の議事を終えた。夕食交流会では各地の地酒と地連紹介で盛り上がり、その後「反核・平和」と「争議支援」の分散会でも、多くの出席者が熱心な議論を交わした。

2日目の討議では、全部で45人の中央委員・代議員・傍聴者から発言があった。特に発言が集中したのは、本部提案などでも強調された組織拡大・強化についてである。「団塊の世代」が数年後に定年を迎えるなかでいかにして次世代の組合運動の担い手を育てていくか、また組織専従オルグを中心に全組合員で未組織労働者を組織していく必要性、企業内多数派を目指した原則的できめ細かな取組みなどが、各地から報告された。

また、官公需印刷物入札制度の改善を求めて京都・大阪・東京で勝ち取った成果、経済闘争の直面する困難さと能力別賃金体系の危険性、メンタルヘルスや健康破壊問題、新聞印刷工場の分社化・再編とその組織化などについて活発な討論が行われた。さらには手作りの「憲法九条Tシャツ」ファッションショーも繰り広げられた。

3日目には、中央執行委員会によるまとめを受けて、満場一致ですべての議案が採択され、「平和宣言」「大会宣言」を拍手で採択した。新役員を選出したのち、澤谷衛彰副委員長が閉会のあいさつ、最後は深野委員長の「団結がんばろう」で幕を閉じた。（平木）

出版労連大会報告

出版労連の第102回定期大会が、7月16、17日の2日間、新宿の三省堂文化会館ホールで開催され45名が発言した。大会一日目の討議は、イラク派兵反対、憲法・教育基本法改悪反対についての発言が活発に行われ、憲法改悪の動きに対し、中長期的な運動の中で全体として重要な課題として捉えていこう。教育基本法改悪の動き、日の丸・君が代の強制、「つくる会」の教科書の採用など一連の動きについて、教科書労働者も多い出版労連としては運動の基軸に位置づけてたたかおうなど積極的な意見が多かった。

続いて2日目にかけては争議や組織攻撃への取り組みが報告され、出版産業へ影響力を持ちうる組織、そのためにも組織の拡大・強化の取り組みが重要な課題であることが浮き彫りになった。なかには、地協から仕事の中身も含めての交流が報告され、出版ネットでは京都で自分の仕事のアピールをする場を設けたなど、仕事を通じて組合をアピールする経験談も語られた。また、個人加盟組織として、大阪、京都支部が9月に出発するという新たな動きに多くの代議員から拍手があった。

一方、仕事に追われ、しかも長時間・過密労働が蔓延し、それもあって組合活動に目が向かないということに、もう一度職場状況を点検し、外に目を向けることが重要だとの指摘も出された。

方針案を可決したあと、秋年末闘争の連帯スト権、イラク派兵反対・憲法改悪反対スト権が確立された。教育基本法改悪反対スト権は前回からの継続とした。

最後に、新村委員長、岩波書記長ら役員を選出して終了した。



新聞労連大会報告

新聞労連の第104回定期大会は7月27、28両日、東京飯田橋・ホテルエドモントで開かれ、中央執行委員長に美浦克教さん（共同通信）を選出、大西省三副委員長の再任、山根岩男書記長の暫定留任（11月末まで）と後任を京都新聞労組から選出することを決めた。明珍美紀委員長、内田直孝副委員長（在阪）は退任した。

明珍委員長は開会あいさつで「今日ほど時代が変化している時はない。それを感じ取るのは新聞記者の職業倫理だ。労連はわれわれの組織。生かすも殺すもわれわれ自身だ。大いに議論し、感性を研ぎ澄まして社会的役割を果たそう」と訴えた。

闘争実績批判案、新年度運動方針案、財政方針案をめぐり、2日間にわたった討論では、延べ29人の代議員が発言。争議関連では、AP通信、奈良、東京の各単組が発言し、新いばらきは争議終結に伴う組合解散を報告した。経営民主化の課題は千葉、いのちと健康を守る取り組みで日経、東奥、新人事・賃金制度をめぐる交渉について秋田魁、北日本、共同の各単組が発言した。

印刷分社化、会社合併など「合理化」に対する取り組みの経験は、スポニチ東京、朝日、中国、毎日、福島民友、日経、読売、西日本の8単組から報告され、コスト削減を優先した合理化攻勢がさらに進んでいる現状が語られた。紙面・ジャーナリズムの課題で神戸DS、長崎が発言。有事法制や基地問題、憲法改悪に反対する闘いの報告が佐賀、南日本、沖縄タイムス、琉球新報の各単組から行われた。

このほか、販売正常化（河北仙販）、労戦問題（読売）、役薦活動（神戸DS、西日本、東北地連）、教宣・組織強化（近畿地連、報知大阪、宮崎日日）などの課題で発言が続いた。

討論のまとめで山根書記長は、憲法改正の動きに触れ「あのとき闘っておけばよかったということのないよう積極的に闘いたい。労連として憲法プロジェクトを立ち上げる考えだ。無所属単産との共闘も進んでいる。単組内に閉じこもらず外に出て闘いを広げてほしい」と呼びかけた。

大会は闘争実績批判、新年度運動方針を拍手で決定。最後に、スローガン、自衛隊のなし崩しの多国籍軍参加と憲法改悪に反対する特別決議（2本）を採択、新旧役員退任・就任あいさつに続いて大会宣言を採択し閉会した。

民放労連大会報告

民放労連第99回定期大会は7月30日から3日間、新大阪のホテルで開かれた。「視聴者のために市民とともに」のスローガンのもと、来賓、代議員、本部役員、大会実行委員ら225人が参加し、のべ92人が発言した。

初日、地元近畿地連の沢田委員長が挨拶に立ち、五一年前、毎日放送の前身「新日本放送」が大阪梅田の阪急百貨店の屋上に仮設の小屋を建て放送していたが、その百貨店の屋上の食堂で第2回大会が開かれ、大阪での開催はそれ以来であることを紹介。

碓氷委員長が開会の挨拶を述べた後、M I Cの明珍美紀議長が来賓として「言論の自由を守るため、活字もテレビもこの国のジャーナリズムを支えていかなければならない」とあいさつ。メディア総合研究所運営委員でスポーツジャーナリストの谷口源太郎氏は、「政官財が結託しての憲法九条や教育基本法の改悪により軍事大国化の動きが加速している」と警鐘を鳴らした。また中労委の労働者委員候補に名乗りを上げている元M I C議長で出版労連顧問の今井一雄氏が駆けつけ、公正任命を求める団体署名のとりくみなど、今年11月の任命に向けていっそうの支援を要請した。

大会はその後、新規加盟組合として読売テレビ構内の映像企画労組が子会社の日本ワーカーズの契約社員を含めて従来の組合を解散して新組合を結成したことが紹介された。

本部から、03年度のまとめと04年春闘の総括、情勢の分析、04年度の運動方針の説明がなされた。方針として強調されたのは、企業の「社会的責任を果たす」という観点から、視聴者の立場に立ってデ

ジタル化計画を見直すこと、劣悪の構内労働者の賃金・労働条件を改善していくこと、憲法改悪の流れを阻止し、平和憲法を守るたたかいが最重点課題として提起された。

また初日には、制作技術会社・大阪東通の東通への営業譲渡に際し、朝日放送の職場を追われ解雇状態となっている安部昌男さんの争議の解決に向けて、テレビ朝日労組出身の岩田淳副委員長を団長として在阪局労組の委員長らからなる解決要請代表団が朝日放送に申し入れを行った。

2日目の冒頭は「憲法九条の会」事務局長を務める小森陽一東京大学教授による「憲法について」の講演。「政府・権力が戦争をできないように縛る最高法規である憲法が、今、国民を縛る最高法規に改憲されようとしている」と警告を発し、憲法九条の会への賛同を呼びかけた。その直後、本部が「九条の会」アピールに拍手で賛同の決議を求めたが、その賛同のニュアンスが「放送を使って」と捉えられかねないとの意見が出て議論が巻き起こったが、本部がその決議提案をいったん取り下げ、議論の継続を呼びかけることで収束した。

2つ目の講演として、最近「地方テレビ局は生き残れるか」を上梓した鈴木健二成蹊大学教授がデジタル化とマスメディア集中排除原則緩和についての現状と将来について講演を行った。

大会は、「地上デジタル化計画の見直しを求める」「憲法改悪に反対する」「プロダクション関連労働者の労働環境、待遇改善を求める」「組織強化」「安部昌男さんを職場復帰させることを求める」「長崎ビジョン労組地労委闘争の早期解決」のそれぞれの決議が承認され採択された。

続いて04年度役員改選の信任投票が行われ、全員が信任。最後に新結成の映像企画労組の小塩友秀副委員長が大会アピールを朗読、拍手で採択された。大会は碓氷委員長の音頭による「団結がんばろう！」のシュプレヒコールで幕を閉じた。

M I C 第43回定期総会のお知らせ

日時：2004年10月9日(土)、10:30～

場所：損保会館(千代田区神田淡路町2-9)

議題：2004年度活動報告と2005年度運動方針
2004年度決算報告と2005年度財政方針